# 常任委員会レポート

## 総務

### 一般会計補正予算

**質問** テレビを設置する指定避難所はどこか。

**回答** 野外活動等研修センター、矢護川コミュニティセンター、陣内地区公民館分館や各小中学校体育館などである。

アンテナ線がきていない体育館もあるので、その配線の工事費も含んでいる。

**質問** 消防詰め所の財源問題だが、一割は熊本空港周辺で、一割地元負担で、残りは一般財源という説明だったが、復興基金がくれば振り替えることができるのか。

**回答** 消防詰め所と積載車車庫を新築する場合、たとえば700万円の費用がかかるとすると、補助500万円を除く残り200万円の負担は熊本空港周辺環境整備協議会補助金で十分カバーできると思う。車庫は町からの補助対象となるが、詰め所は地元負担が発生する。復興基金もメニューとしてはあるが、どの程度くるかという詳しいことがまだわからないので、中身が判明次第、振り替えられるものは振り替えていく。

消防団詰め所

**質問** 避難所等運営補助金は元々あったものなのか。

**回答** 今回、町が独自に要綱を定めて補助することとした。各避難所においては、住民の避難受け入れから炊き出しなどに至るまで大変ご協力いただくので、一律30000円と一人当たり1日、100円を支給しようとするものである。

## 経済建設

### 農業委員及び農地利用最適化推進委員の定数条例について

**質問** 来年7月から、新しい農業委員会制度に移行する経過はどうなっているのか。委員等の選出で、区域割案は現時点でできているのか。

また、今回の制度改正が、先進的な農業につながり、農業振興に寄与する機会になる必要があると思うがどうか。

**回答** 国の方針で、農業委員数は減少する。

（23人から12人へ）

今回、新たに農地利用最適化推進委員17人が委嘱され、全体の委員総数は、6人多くなる。

農業委員は、地区割りの選出はできない。

最適化推進委員は、現農業委員担当の17地域からの公募を考えている。

農業振興地域整備計画と都市計画の協議を行い、土地利用や農業振興地域の選定が重要と考える。

### 第2回被災農業者向け経営体育成支援事業 10億3798万円

**質問** 第1回申請の事業進捗状況と補助金支払い状況はどうか。

農家は、工事費支払いや金融機関の手続きで、資金繰りに苦慮している。補助金の概算払いなど早急な支援を検討しているのか。

**回答** 11月中旬に補助金の交付決定をしている。

町検査確認後の請求支払である。

申請者の資金繰りも考慮し、少しでも早く補助金の支払いができる概算払いも行っていく。

### 住家被害認定3次調査委託 240万円

**質問** 3次調査で判定が上がった割合と、その内容はどんなものか

**回答** 約2割程度が上昇。一部損壊から半壊になった例がほとんどである。

## 文教厚生

### 義援金の配分

**質問** 義援金の配分が遅れている経緯は。

**回答** 町の義援金が400万円ほど集まっており10月に町が配分委員会を開催したが、県が一部損壊の被災者に対して配分する動きがあり決定を待った。12月に再度配分委員会を開催する。義援金だけでは賄えないので、町独自予算を組んで捻出することも考えている。

**質問** 地域支え合いセンターの取り組み状況は。

**回答** 10月に地域支え合いセンターを開設し2ヶ月が経過した。現在、主任生活相談員1名、生活相談員3名、生活相談補助員8名、事務員を1名配置して事業を進めている。仮設住宅での孤立を防止するために仮設住宅を中心に毎日、相談員による巡回訪問を行っている。併せて、みなし仮設住宅への電話相談や郵送による周知を行っている。

### 人工芝化

**質問** 運動公園多目的広場整備工事（人工芝改修事業）をどうしても、今、やらないといけないか。

**回答** 本年度の当初予算にて工事費を予算計上したが、熊本地震の影響で事業着手が遅延。19年経過した多目的広場の天然芝は老朽化が進み回復することができない状況にあり、早急な改修が必要。人工芝は維持経費も安い。健康づくりの気運を高め夢と希望を与える復興の起爆剤として元気な大津を全国にアピールしたい。

室仮設団地、みんなの家でのボランティアによる食事会